

30年度1級土木実地試験受験ガイドンス

■最近の合格率(26年度より大幅改善か)

23年までの過去3カ年の実地試験合格率は20%前後で施工管理技士試験の中でも最も低い合格率となっていました。24年から30%を超え、改善の兆しが見られます。26年学科合格点は2点引き下げとなりました。

■1級実地試験合格率の推移

年度	29年	28年	27年	26年	25年	24年	23年	22年	21年	20年	19年	18年	17年
%	30.0	36.7	37.3	39.5	35.3	34.6	20.8	18.5	19.5	25.9	36.7	30.7	56.2
年度	16年												
%	66.4												

■学科試験合格有効期間は翌年まで

- ・初年度実地試験が不合格の場合、翌年に実地試験のみ受験し、これに合格すれば施工管理技士試験合格となります。
- ・しかし、翌年に合格しない場合は、学科試験合格は無効になり、以後、学科試験から受験し直すこととなります。

■出題内容(29年)

検定試験は、

- ①全11問題で構成され、問題1は例年「**施工経験記述**」問題が出題され、**必須問題**となっています。
- ②問題2～6の5問題は選択問題となっており、その内から3問題を選択解答します。
- ③問題7～11の5問題は選択問題となっており、その内から3問題を選択解答します。

29年出題例

29年問題はこちら

問題1 施工経験記述問題(必須)		
選択問題		
問題2 土工(軟弱地盤対策工法)	=	3問題選択
問題3 コンクリート工(打ち継ぎ)		
問題4 品質管理(コンクリート)		
問題5 安全管理		
問題6 環境対策(建設リサイクル法)		
選択問題		
問題7 土工(排水工)	=	3問題選択
問題8 コンクリート工(寒中コンクリート)		
問題9 品質管理(盛土の品質規程方式)		
問題10 安全管理(クレーン等安全規則)		
問題11 施工計画(施工計画作成)		

■合格基準

※合格基準の1部については22年本試問題において初めて次の様に公表しました。

<p>問題1で</p> <p>①設問1の解答が無記載又は記入漏れがある場合、</p> <p>②設問2の解答が無記載又は設問で求められている内容以外の記述の場合、</p> <p>問題2以降は採点の対象となりません。</p>
--

- ※問題1の施工経験記述内容に上記の不備がある場合は、問題2以降の選択問題の採点をしないとしています。つまり即不合格判定となるということです。
- ※選択問題(問題2～11)についてはは明らかにしていませんが、データでは概ね60%以上の正解率を合格条件にしています。
- ※以上のことから合格基準は次の様に想定できます。

<p>実地合格基準</p> <p>下記の①②の両方を満たすもの。</p> <p>①施工経験記述問題(必須)の記述内容が一定の基準を満たすものであること。</p> <p>②選択問題の正解率が60%以上であること。</p>
--

■最新の傾向と対策

<施工経験記述問題>

記述テーマは次のように推移しています。

29年	現場状況から特に留意した安全管理	22年	品質管理（施工条件が異なった場合）
28年	現場状況から特に留意した安全管理	21年	出来形管理
27年	現場状況から特に留意した品質管理	20年	仮設工における技術的課題
26年	現場状況から特に留意した安全管理	19年	事故防止対策（第三者災害を除く）
25年	現場状況から特に留意した品質管理	18年	出来形管理
25年	現場状況から特に留意した品質管理	17年	工程管理
24年	現場状況から特に留意した工程管理	16年	品質管理
23年	安全管理（交通誘導員の配置除く）		

※ 17年までは記述テーマは「品質管理」「工程管理」「安全管理」の繰り返しで出題されていました。

※ 18年からは上表のように「出来形管理」が追加されるとともに、細分化したテーマや記述条件が付加された出題となり、以後合格率は急落しました。

※ この時の急落の原因は予め記述を準備して受験しても、予想外の記述条件やテーマの出題により、試験会場で全面的な書き直しや修正を余儀なくさせられて、ほとんどの受験者が対応できなかったとみることが出来ます。

※ 22年からは、従来のような「品質管理」「工程管理」「安全管理」というテーマ設定に戻っています。

※ また、前述のように22、23年度に、**施工経験記述問題の指定記述項目や記述要求事項の書き漏れ・要求内容と異なった記述は、以降の問題は採点はせず、即不合格とする旨、明示しています。**

※ 市販の参考書で、この変更事項に対応した記述解答例を掲載しているものは少なく、22、23年とも合格率は20%前後と低下しました。

※ 24年以降は上記明示条件が周知され、施工経験記述による、ふるい落としが少なくなり合格率の上昇につながったとみることが出来ます。

■今年30年度の傾向予想

<施工経験記述問題>

- ① 記述テーマは「品質管理」「工程管理」「安全管理」の従来パターンは変わらないと思われます。ただ、施工計画、環境保全対策の出題も予想されるので要注意。
- ② 記述事項等の記述条件もほぼ変わらず、記述スペース（行数）の増加要注意。
(以後HPにて逐次掲載致します)

<選択問題>

※ 全体に過去問題が減り、新規問題が多くなっていますので、難易度がますます高くなっています。ただ、昨年は例年より若干出題レベルを下げて、過去問題の出題比率が高い様に思われました。

※ 最近の顕著な傾向として品質管理、工程管理、安全管理、施工計画、環境対策に至る全分野で土工、コンクリートに絡む出題が多くなっており、土工・コンクリート工分野のより深度を深めた徹底理解が重要ポイントとなります。

※ 「土工」では最近は土量計算の問題が減り、土質力学を含めた土質調査・土工計画のハコ入れ問題が増えています。特に地滑り・土砂崩壊の原因となる剪断強度の低下に関するメカニズムの理解とその対策「コンクリート工」では、耐久性照査・ひび割れ防止・劣化検査に関する問題が増えています。混和材、エポキシ樹脂鉄筋についての理解も要注意です。

■今年30年度の傾向予想

- ① 土工、コンクリート工、品質のハコ入れ問題、記述問題とも学科で頻出している比較的素直な基本的内容のレベルか、土工、コンクリートとも品質に関する出題が多い。機械化施工の出題も増えている。
- ② 施工計画、安全管理、環境対策はより現場に即した実践的内容の傾向。「施工計画書の作成にあたって」という設問条件に要注意。(後HPにて逐次掲載致します)

合格対策

**施工経験記述問題1のクリアは、合格するための絶対的条件です。
先手必勝1日も早いスタートこそ合格への近道！**

■30年実地試験までのスケジュールと受験準備

- ・想定される施工経験記述テーマは「施工計画」「品質管理」「安全管理」「工程管理」「出来形管理」「環境対策」など多岐にわたります。(22年からは、品質、工程、安全の3テーマの繰り返しとなっております)
- ・それぞれのテーマについて合格基準を満たす記述を準備し、かつ、他の選択問題の正解率を合格ラインまで持って行くためには、合格発表を待ってからではかなり厳しいスケジュールとなります。
- ・**学科試験日翌日(7/2)の問題・解答発表で合格点を確認して早く受験準備に入りましょう。**
- ・繰り返しになりますが、施工経験記述問題(必須)は、益々重要度を高めています。合格を確実なものとするためには事前に、予想される課題について答案文を練っておく必要があります。
- ・**記述文合格のキーワードは、漏れなく、明確に**ということ。与えられた記述条件を明確に漏れなく、**解りやすく文章表現**しなくてはなりません。そのためには、論旨がより明確に伝わる文章形式を採用して記述するということがポイントとなります。当社の記述指導課題は、上記の要求に応えるものとして開発されたものです。この課題のもとに当社の実績のある専門講師の記述添削指導を受けられることをお勧めします。

学科試験から実地試験までのフロー

学科試験日 7/1 試験時間問題A 10:00～12:30 問題B 13:30～16:00

- ※試験時間の最後まで在室した方は試験問題を持ち帰ることが出来ます。
- ※各問題に自分の解答をマークして持ち帰りましょう。

学科問題 7/2 13時よりインターネットで掲載
解答公表

- ※インターネットで試験問題と解答が発表になります。試験問題持ち帰った方は合否(60%以上の正解)を確認して直ちに受験に準備に入りましょう。

通信指導受講(第1次)
通信DVD受講(第1次)

学科合格発表 8/17

- ※当日朝9時にインターネットで発表になります。試験日まで約7週間、施工経験記述対策が時間切れになる可能性があります。記述対策を先行して早く記述を完成させましょう。

通信指導受講(第2次)
通学コース スタート

直前講座10/5・10/6 で総チェック・直前仕上げ

実地試験日 10/7 (試験時間は13時15分～16時00分までの2時間45分です)

- 問題1の施工経験記述問題をいかに早く仕上げるかが合否を分けます。
- ※必ず事前に記述添削を十分に受け、予め解答文を準備して試験に臨みましょう。
- ※問題1施工経験記述で時間を使ってしまうと問題2以降の選択問題の解答が時間不足になってしまい正解率が低下してしまいます。目標は30分、どんなに遅くとも1時間以内に仕上げましょう。

選択問題は5問題から3問題を選択し解答します。

※それぞれの問題は設問1と設問2の2問題で構成されており、難易の高い問題と、比較的易しい問題を組み合わせているよう見受けられます。

※一応全問検討して、取り組みやすい問題、最も正解率が高いと思われる問題を選択しましょう。
(どれを選択問題とするかの判断も重要ポイントです)

※試験開始から1時間経過すると退出できますが、合格する受験者はぎりぎりまで粘って、問題に取り組みます。1時間で出て行く人は、ほとんど不合格者です。ぞろぞろ出て行く人にペースを乱されないで、最後まで問題と格闘しましょう。

(株)東北技術検定研修協会

本 社 〒980-0802 仙台市青葉区二日町13-26ネオハイツ勾当台2F

お問い合わせ E-mail : info@tohokugiken.com

TEL 022(738)9312 FAX 022(738)9365

支店ACR0109227 七十七銀行 本店 (TEL) 0213891 (TEL) 東北技術検定研修協会 (本社住所) 〒980-0802 仙台市青葉区二日町13-26-2F